

小学校・第5学年・学級活動（2）・「目指せ整理整頓マスター」①

熊本市提供

育成を目指す資質・能力

- 整理整頓の大切さを知り、そのために必要な整理整頓の知識や整理整頓の仕方を身に付けるようにする。
- 自己の生活上の課題に気付き、話し合いを生かして、自ら解決方法を意思決定することができるようにする。
- 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとする態度を養う。

ICT活用のポイント

- 授業の導入で、リアルタイムで結果を確認できるアンケート機能を使ってアンケートを取り、その場で学級の実態を示すことで整理整頓の必要感や切実感をもたせる。
- 効果的な整理整頓の仕方について、家族にインタビューしたり、ICT端末のカメラ機能を活用し、家の整理整頓のポイントを写真に撮って持ち寄ったりすることで、解決方法のヒントとなるようにする。
- 話し合いの場面で学習支援ソフトのデジタルホワイトボード機能を使って意見を書き込み、それを電子黒板に映し出すことで、友達の意見を共有しやすくする。

【つかむ】意識調査の結果等から学習のめあてを理解する

【さぐる】整理整頓をするメリットとデメリットを話し合い、整理整頓の必要性を理解する

【見つける】効果的な整理整頓の仕方について話し合う

【決める】自分にできる整理整頓の仕方を見つけ、自分のめあてを決める

事例の概要

【つかむ】

事前にとっておいた意識調査の結果を示し、整理整頓に対する学級の意識を確認する。さらにアンケート機能を使って、授業開始時点での認識を確認し、結果をグラフ化して提示することで、意識と実態の差に気付くことができるようにする。

【さぐる】

デジタルホワイトボード機能のシートに、整理整頓をすると「よいこと」と「困ること」を班で出し合う。授業者はシートを確認し、有効性が感じられるものを電子黒板に写し、共有する。

【見つける】

各自で事前に用意してきた家族へのインタビュー動画や家の中の写真などをもとに話し合い、効果的な整理整頓の仕方について考える。

【決める】

話し合いで出された整理整頓の仕方を参考に、自分のめあてを意思決定する。

小学校・第5学年・学級活動（2）・「目指せ整理整頓マスター」②

【ICT活用の場面①（つかむ：実態把握）】



【ICT活用の場面②（見つける：解決方法の話合い）】



【ICT活用の場面①（つかむ：実態把握）】

○学習過程と事例におけるICT活用の場面との関係

事前意識調査では、「整理整頓ができている」と答える子供が多かったが、教師から見るとできていないところも多かった。そのため、導入で、自分の机の中やロッカー等を確認し、その時感じた思いについてアンケート機能を活用して確認し、結果をリアルタイムでグラフに示した。事前意識調査の結果だけでなく、授業時点での認識をその場で提示したり、話し合ったりしたことで、子供たちも整理整頓に対して必要感、切実感を持ち、自分事として考えることができた。

○ICTを効果的に活用するためのポイント

アンケート機能を活用し、結果をリアルタイムでグラフ化したことで、事前意識調査の結果と授業開始時点での認識が比較できた。それにより、整理整頓できていると思っていたが、実際にはそれほどできていないということに気付くことができた。

【ICT活用の場面②（見つける：解決方法の話合い）】

○学習過程との関係

事前に用意してきた家族へのインタビュー動画や家の中の写真などを、互いに見合っ
て話し合うことで、効果的な整理整頓の仕方に気付き、具体的な意思決定につなげ
ることができた。

○ICTを効果的に活用するためのポイント

ICT端末を持ち帰り、整理整頓の工夫を動画や写真で準備しておくようにした。事
前に、学年通信等で取組について保護者に知らせ、理解と協力を求めておいた。

【活用したソフトや機能】カメラ機能、学習支援ソフト（デジタルホワイトボード機能、アンケート機能）